

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身の回りの量感を意識して指導した結果、物の長さや重さ、面積等の感覚が育ってきた。
- ・文章題の場면을図や式に表すことを重点に置き、自分の考えを表現する場면을多く設定することで、考えを表現することへの苦手意識が減ってきている。

(2) 課題

- ・新しい概念を習得するための演習の機会を多く確保することはできているが、基礎・基本の演習が少なくなり、計算力などの定着に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	・達成率は約8割である。 ・全観点で目標値を大きく上回った。		
第5学年	・達成率は約7割5分である。 ・全観点で目標値を上回った。	(第4学年時) ・達成率は約8割5分である。 ・全観点で目標値を大きく上回った。	
第6学年	・達成率は約7割である。 ・全観点で目標値を上回った。	(第5学年時) ・達成率は約7割である。 ・全観点で目標値を上回った。	(第4学年時) ・達成率は約8割である。 ・全観点で目標値を上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・概ね知識の習得はできている。 ・長さや小数・分数のしくみ、かけ算の計算に関する設問で正答率が他に比べ低いことから、習熟不足が見受けられる。	・棒グラフの有用性や特徴を説明することについて、正答率が上がってきている。 ・□を使ってかけ算の式に表す設問の正答率が低く、立式の際に場面における数量関係を捉えさせる機会を多くもつようにする。	・授業中の学習課題に取り組む姿勢は、どのクラスも概ね意欲的であり、自力解決に取り組もうとしている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 概ねの知識は習得できている。 - 倍数についての理解や小数のしくみや数直線上に示された分数、わり算・計算のきまりに関する設問で正答率が低いことから、習熟不足が考えられる。	- 伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことや、多角形と円・合同に関する内容の設問に正答率が上がってきている。 - 百分率を理解して式の意味を考えて立式する設問で正答率が低いことから、割合について習熟不足が考えられる。	授業中の学習課題に取り組む姿勢はどのクラスも概ね意欲的であり、自力解決に取り組もうとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「かたちあそび」でタブレットを活用し、同時双方向で確認できるようにする。 2位数の加法計算では、タブレットドリルを活用し、繰り上がりの仕方を確実に身に付けさせ、類似問題に繰り返し取り組ませる。 - 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算では、計算カードなどを使い、繰り返し練習できるようにする。	- 文章題をもとに、言葉を図や記号に置き換えて考えをもつことができるようにする。 - ブロックなどの具体物を操作しながら考えを説明できるようにする場面をつくる。 - 考え方を図や文章、式など、多様な方法で表現する場を作る。 - 文章題をテープ図に表す練習をし、数量関係の表現ができるようにする。	- 導入で日常生活における場面を想起した意欲付けをし、1時間の活動に自ら取り組めるようにする。 - デジタル教材を活用し、ものさしや測定の仕方を視覚的に捉えさせ、興味をもたせて取り組ませる。 - 長さや水のかさを、量の大きさを予想し、実際の計測値と比べることを通して、量の概念を形成できるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 計算問題を確実に定着させるために、反復して既習事項も含めた計算練習に取り組む時間を設けたり、検算を行わせたりする。 - 数の構成や図形などを中心に、基礎的・基本的な力の定着を図るために復習の問題を解く時間を設ける。間違えた原因を理解させ、確実に定着を図る。 - 既習事項を復習する場面を設定し、タブレットドリルやドリルパークの活用するなどして基礎基本の定着を図る。	- 既習事項を活用し、見通しをもって自分の解決方法を考えさせる。図や式の意味を理解させ、図・式・言葉を用いて筋道立てて自分の考えを相手に分かりやすく表現させる。 - 自力解決した方法をグループやペアなど形態を工夫し発表し合う場を多く設定する。自分と異なる考えに触れ、考えを広げたり、深めたりできるようにする。	- 習熟度別少人数学習の形態を生かし、習熟度別クラスの実態に合った指導を行い、児童の意欲を引き出す。 - デジタル教科書を活用することで、図形や線分図、グラフなどにおいて視覚的に関心・興味をもたせる。図形や線分図などの意味を理解させ、学習に取り組む手立てとなるようにし、学習向かう意欲を培う。 - 習熟度別クラスの実態に合わせて問題解決をするようにし、自分の解法に固執せず、友達の考えから学んで、より良い方法を取り入れる意識を培う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小数・分数の計算や計算の工夫を中心として計算問題を確実に定着させるために、反復して既習事項も含めた計算練習に取り組む時間を設けたり、検算を行わせたりする。 ・図形の性質を含め、基礎・基本の定着を図るため、反復して問題を解き、間違えた原因を理解させ、確実に定着を図る。 ・既習事項の復習をする場面を設定し、タブレットドリルやドリルパークを活用するなどして、基礎・基本の定着を図る。	・既習事項を活用し、根拠を明らかにして筋道立てて自分の解決方法を考える。式・図の意味を理解して、式・図・言葉を使って自分の考えが相手に伝わるように、簡潔で分かりやすく表現することを意識させる。 ・自力解決した方法をグループやペアなど形態を工夫し発表し合う場を多く設定する。互いに自分の考えを共通の場で伝え合い、共有したり、質的に高め合ったりして相互に影響し合えるようにする。	・習熟度別少人数学習の形態を生かし、個習熟度別クラスの実態に合った指導を行い、児童の意欲を引き出す。 ・デジタル教科書を習熟度別クラスの実態に合わせて活用することで、図形や線分図、グラフなどにおいて視覚的に関心・興味をもたせ、意味を考えさせて取り組ませる。 ・自分の解法に固執せず、友達の考えと自分の考えの異同を考察したり、複数の解決のアイディアに基づいてよりよい解決を求めて考えを統合したりすることを学びながら、取り組ませる。